

# 山下栄鹿屋市長が退任

山下栄市長が、任期満了により、2月4日で退任いたしました。平成18年から鹿屋市初代市長として1期4年間、新市の一体感醸成、行財政基盤の確立などに取り組み、鹿屋市の礎を築かれました。ここに、市長の在任期間を振り返って、平成21年12月鹿屋市議会定例会でのあいさつの一部と鹿屋市の主な歩みを紹介します。

2月4日、市職員等に見送られ市役所を退任する山下市長



平成18年2月に、新生「鹿屋市」の初代市長に就任し、鹿屋市が、今後、さらなる発展を遂げるための足がかりとなる重要なスタートの時期に、市政の舵取り役を担うことに、従前にも増して責任の重大さを痛感したことが、思い出されます。

新市において、私は、(1)新市の一体性を早急に確保し、均衡ある発展を目指す「融合」、(2)厳しい時代にあっても、住民サービスを維持・向上していくための行財政改革の断行と、共生・協働の地域づくりを実現する「改革」、(3)そして、これらの取組の推進により、10万市民



市職員を前に退任のあいさつをする山下市長

## 新生「鹿屋市」の主な歩み

平成18年

- 2月・山下栄初代鹿屋市長就任
- 3月・「指定管理者移行計画」、「鹿屋市行政経営改革大綱」等を策定
- 鹿屋市漁協にフィーレ加工施設等を設置
- 西原パイパス開通
- 4月・飯田機械㈱と立地協定を締結(11人雇用)
- 「かのやばら園」グランドオープン
- 5月・県内初の地域自治区を設置
- 市花・市章・市旗を決定
- 「在日米軍再編に関する最終報告」を受け、市民総意としての断固反対の要望書を国へ提出
- 6月・鹿屋市行政経営改革推進会議(総括会議)を設置
- ㈱スリーベルと立地協定を締結(120人雇用)
- 日本モレックス㈱と立地協定を締結(62人雇用)
- 職員定員適正化計画の策定
- 7月・子育て支援施設、つどいの広場「ひよこ」を県内で初めて開設
- 8月・串良川内水対策としてポンプ設備等を整備
- 11月・串良地区、市道星ヶ丘矢柄線の整備に着工
- 12月・「鹿屋市財政改革プログラム」を策定
- 吾平町、坂元堀木田線外3線工事に着工

平成19年

耐震化や校舎の増改築、児童・生徒1人1台体制のパソコン設置などの教育環境の充実、③市内各地域を連結する幹線道路や橋りょう等の整備など、市民生活に直結する事業に重点的に取り組んでまいりました。

2つ目の「改革」については、限られた財源の中で、効率的・効果的に市民の皆様福祉の増進や地域活性化を図っていくためには、徹底した行財政改革が不可欠であると強く認識しております。このため、新市におきましても行財政改革推進本部を設置し、「改革」を断行してきたところであります。

平成20年

- 1月・行財政改革推進本部を設置
- 3月・「鹿屋市バイオマスタウン構想」、「鹿屋市水道ビジョン」(水道事業基本計画)を策定
- 吾平地区ほ場整備工事完了
- 古江パイパス開通(花岡町・垂水市新城市間)
- 4月・「鹿屋市総合計画」、「鹿屋市公会計制度改革計画」を策定
- 肝属地区清掃センター、きもつき苑等が供用開始

左/平成18年5月「在日米軍再編問題に関する最終報告」を受け、市民総意としての断固反対の要望書を国に提出  
下/平成18年5月 県内で初の「地域自治区」を設置し、開催された第1回地域協議会



とともに未来を切り拓いていく「前進」の3つを柱とした市政運営を基本理念としてまいりました。

1つ目の「融合」については、新市の市民、地域が真に一体となることが何より肝要であると認識し、まづもって新市の市政運営の指針となる「鹿屋市総合計画」を策定するに当たり、合併協議の中で、県内に先駆けて設置することを決定した地域自治区、地域協議会の意見等を十分に反映させたところでございます。

また、旧3町地域の課題であった、①河川の内水対策である排水用水中ポンプ設置などの災害対策を講じるとともに、②小中学校の



防衛庁でインタビューを受ける山下市長



平成18年4月 日本一の規模を誇る「かのやばら園」がグランドオープン(8ha、4千種、5万株)

